

タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3602S		
科目名	危機管理実践研究 2		
担当教員	鈴木 秀洋		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	集中		
講義室		単位区分	選
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	共通学習科目		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E[学識・専門技能]専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP2-B[自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢]自己の存在意義を知り、自らを高め続けようとする努力することができる。 DP5-J[創造的挑戦力・達成力]コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 DP6-K[表現力・対話力]文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L[協働力・牽引力]集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連携を強めることができる。 DP8-M[省察力]知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■CRコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 B1 自己啓発（10%） E1 学識と専門技能（30%） J1/2 継続的学修基盤、創造的思考（30%） K1/2 ライティング・コミュニケーション、オーラル・コミュニケーション（10%） L1 チームワーク（10%） M1 統合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	行政実務者としての経験を踏まえ、子ども、ジェンダー、ダイバーシティに関する制度設計と運用実務についての知識を提供します（第1回～第15回まですべての回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	パブリック・セキュリティ領域の専門科目を通じて学んだ知見を、具体的な問題に適用して、グループワーク、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の双方型学修技法に基づき再構成し、実社会において応用可能で再生産可能なスキルへと昇華することを目指します。座学と演習を通じて、直面した組織の情報収集・分析及び意思決定の難しさに関して体験的な理解を深めることが本科目の目的です。授業は対面で講義により行います。なお、授業の一部を補完するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニング（遠隔授業）を取り入れる場合があります。 ■キーワード 双方型学修、パブリック・セキュリティ、こども、ジェンダー、ダイバーシティ 災害弱者		

授業の趣旨	■副題 危機管理の実務に必要な基礎的な知識をこども、ジェンダー、ダイバーシティの観点から学びます。 ■授業の目的 こども、ジェンダー、ダイバーシティに係る行政実務にかかる取組を考える上で必要となる基礎知識を学びます。 ■授業のポイント こども、ジェンダー、ダイバーシティをテーマに、住民側・行政側双方の視点から直面する課題への取組について学びます。	
総合到達目標	■こども、ジェンダー、ダイバーシティに関するさまざまな事象・システムについて自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べることができる。 ・上記テーマのこれまでの制度設計について説明できる。 ・上記テーマの課題と現実の対応などについて説明できる。（第1回～第15回まで毎回）	
成績評価方法	■授業参加度（50%）：適用ルーブリック B1・J1・K2・L1 （評価の観点）発表、発言、質問、意見交換など授業構築への参加度を評価します。 （フィードバックの方法）授業の場でフィードバックします。 ■レポート（30%）：適用ルーブリック E1・J1・J2・K1 （評価の観点）予習ワークシート（第1回・第2回・第4回）の内容及び現地研修後に作成する政策提言の企画書（第14回）を評価します。 （フィードバックの方法）提出にコメントを付して返却します。 ■実技・パフォーマンス（10%）：適用ルーブリック K2 （評価の観点）構成・発表資料・発表のスキルを評価します。 （フィードバックの方法）発表に対してコメントをします。 ■ポートフォリオ（10%）：適用ルーブリック M1 （評価の観点）学習の時間と内容等の記録用紙を回収し、適切な自宅学習がなされているかを評価します。 （フィードバックの方法）提出へのコメント又は授業の場でフィードバックします。	
履修条件	事前・事後学修及び現地研修、全ての日程に参加できる者。 こども、ジェンダー、ダイバシティーに関心を持ち、授業担当者の教科書を読み学んでいること。行政法ⅠⅡの授業を履修済みであることが望ましい。	
履修上の注意点	このテーマに関する第一人者・実践者から話を聞く機会を設けるので、積極的かつ真摯に学ぶ姿勢が求められる。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、評価の仕方）・「子ども、ジェンダー、ダイバーシティ」に関する基本事項 ②授業概要 授業の全体テーマ、進め方、評価の仕方を確認する。 海洋安全保障に関する基本事項について説明することができるようにする。（E1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） シラバスの内容を精査する。シラバスの内容を踏まえて、この科目の履修を通じて達成すべき自分なりの成果の目標を設定して書き出す。この目標を達成するための方策、予想される困難とこれを克服する方策を考える。子ども、ジェンダー、ダイバーシティに関する参考文献等を調べる。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 講義を踏まえて子ども、ジェンダー、ダイバーシティに関する担当教員の文献を読み、その意義について考察する。学習の記録をつける。
	2	①授業テーマ デートDVに係る制度の課題と対応について（事前学修Ⅰ） ②授業概要 グループワークの中で授業テーマに関して説明し、自分の考えを述べ、他者との意見との比較でその長短を述べることができるようにする。（B1・E1・J1/2・K1/2・L1・M1） ③予習（120分） 参考となる文献等を調べ、論点を踏まえ要約を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点について考察する。学習の記録をつける。

3	①授業テーマ デートDVに係る課題と対応について（事前学修Ⅰ） ②授業概要 各グループ毎の発表を行いクラス全体に対して、自分の考えを述べ、他者との意見との比較でその長短を述べるようにする。（B1・E1・J1/2・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 発表の準備を進める。学習の記録をつける。 ④復習（120分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点について考察する。学習の記録をつける。
4	①授業テーマ 公共訴訟（CALL4）の活動について（事前学修Ⅱ） ②授業概要 グループワークの中で授業テーマに関して説明し、自分の考えを述べ、他者との意見との比較でその長短を述べるようにする。（B1・E1・J1/2・K1/2・L1・M1） ③予習（120分） 参考となる文献等を調べ、論点を踏まえ要約を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点について考察する。学習の記録をつける。
5	①授業テーマ 公共訴訟（CALL4）の活動の活動について（事前学修Ⅱ） ②授業概要 各グループ毎の発表を行いクラス全体に対して、自分の考えを述べ、他者との意見との比較でその長短を述べるようにする。（B1・E1・J1/2・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 発表の準備を進める。学習の記録をつける。 ④復習（120分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点について考察する。学習の記録をつける。
6	①授業テーマ 鎌倉市共生社会への取組について（現地研修Ⅰ） ②授業概要 授業テーマに関する政策実務上の説明を理解し、新たな政策課題を見つけ、必要となる政策の選択肢を提示することができるようにする。（B1・E1・J1/2・K1/2・L1・M1） ③予習（120分） 参考となる文献等を調べ、論点を踏まえ要約を作成して現地に持参する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点について考察する。学習の記録をつける。
7	①授業テーマ 鎌倉市共生社会への取組について（現地研修Ⅰ） ②授業概要 授業テーマに関する政策実務上の説明を理解し、新たな政策課題を見つけ、必要となる政策の選択肢を提示することができるようにする。（B1・E1・J1/2・K1/2・L1・M1） ③予習（120分） 参考となる文献等を調べ、論点を踏まえ要約を作成して現地に持参する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点について考察する。学習の記録をつける。
8	①授業テーマ 鎌倉市共生社会への取組について（現地研修Ⅰ）

	②授業概要 授業テーマに関する政策実務上の説明を理解し、新たな政策課題を見つけ、必要となる政策の選択肢を提示することができるようにする。(B1・E1・J1/2・K1/2・L1・M1) ③予習(120分) 参考となる文献等を調べ、論点を踏まえ要約を作成して現地に持参する。学習の記録をつける。 ④復習(120分) その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点について考察する。学習の記録をつける。
9	①授業テーマ 鎌倉市共生社会への取組について(現地研修Ⅰ) ②授業概要 授業テーマに関する政策実務上の説明を理解し、新たな政策課題を見つけ、必要となる政策の選択肢を提示することができるようにする。(B1・E1・J1/2・K1/2・L1・M1) ③予習(120分) 参考となる文献等を調べ、論点を踏まえ要約を作成して現地に持参する。学習の記録をつける。 ④復習(120分) その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点について考察する。学習の記録をつける。
10	①授業テーマ 自治体の子ども施策(東京23区)について(現地研修Ⅱ) ②授業概要 授業テーマに関する運用実務上の説明を理解し、新たな政策課題を見つけ、必要となる政策の選択肢を提示することができるようにする。(B1・E1・J1/2・K1/2・L1・M1) ③予習(120分) 参考となる文献等を調べ、論点を踏まえ要約を作成して現地に持参する。学習の記録をつける。 ④復習(120分) その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点について考察する。学習の記録をつける。
11	①授業テーマ 自治体の子ども施策(東京23区)について(現地研修Ⅱ) ②授業概要 授業テーマに関する運用実務上の説明を理解し、新たな政策課題を見つけ、必要となる政策の選択肢を提示することができるようにする。(B1・E1・J1/2・K1/2・L1・M1) ③予習(120分) 参考となる文献等を調べ、論点を踏まえ要約を作成して現地に持参する。学習の記録をつける。 ④復習(120分) その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点について考察する。学習の記録をつける。
12	①授業テーマ 自治体の子ども施策(東京23区)について(現地研修Ⅱ) ②授業概要 授業テーマに関する運用実務上の説明を理解し、新たな政策課題を見つけ、必要となる政策の選択肢を提示することができるようにする。(B1・E1・J1/2・K1/2・L1・M1) ③予習(120分) 参考となる文献等を調べ、論点を踏まえ要約を作成して現地に持参する。学習の記録をつける。 ④復習(120分) その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点について考察する。学習の記録をつける。
13	①授業テーマ 自治体の子ども施策(東京23区)について(現地研修Ⅱ) ②授業概要 授業テーマに関する運用実務上の説明を理解し、新たな政策課題を見つけ、必要となる政策の選択肢を提示することができるようにする。(B1・E1・J1/2・K1/2・L1・M1)

	M1) ③予習（120分） 参考となる文献等を調べ論点を踏まえ要約を作成して現地に持参する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点について考察する。学習の記録をつける。
14	①授業テーマ レポート発表（事後学習Ⅰ） ②現地研修を踏まえ作成したレポートについて説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるようにする。（B1・E1・J1/2・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 発表の準備を進める。学習の記録をつける。 ④復習（120分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点について考察する。学習の記録をつける。
15	①授業テーマ まとめ ②授業概要 パブリックセキュリティ分野における子ども、ジェンダー、ダイバーシティの視点及び施策の重要性を理解し、説明できるようにする。（E1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） これまでの授業を振り返り、授業テーマについて考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 学習の記録を確認して、学習の成果を振り返る。
関連科目	行政法と行政過程Ⅰ（RMGT3452）、行政法と行政過程Ⅱ（RMGT3557）
教科書	鈴木秀洋『虐待・DV・性差別・災害等から市民を守る社会的弱者にしない自治体法務』（第一法規）、鈴木秀洋『自治体職員ための行政救済実務ハンドブック（改訂版）』（第一法規）、鈴木秀洋『自治体職員のためのLGBTQ理解増進法逐条解説ハンドブック』（第一法規）
参考書・参考URL	鈴木秀洋『子を親を児童虐待から救う』（公職研）
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に通知します。 ■オフィスアワー 開講時に通知します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント30%：パブリックセキュリティ40%：グローバルセキュリティ15%：情報セキュリティ15% ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学50%：法学50%

